

東陽中学校の ESD 活動

〈活動の概要〉

- ・東陽中学校区は、農業を中心に発達してきた。そのため、豊作祈願、和太鼓といった風習や文化が、歴史をもつ寺社や葦毛湿原に代表される豊かな自然とともに受け継がれてきた。一方、校区の区画整理事業が進捗したこと、市内最大の団地が存在することにより、住民の転出入も多くなった。とりわけ近年は、外国人労働者の転出入が顕著になり、本校の外国籍生徒数もここ数年100名前後を維持しており、常に多文化が混ざり合う中でバランスを取りながら日本人生徒と外国籍生徒が共生している環境にある。
- ・教科の学習内容、地域学習や学校行事等に関連づけた活動を「自然と伝統」「国際社会」の観点から学習を深めていく。

・活動の実際

① 自然・環境を考える活動（有志参加）

毎年4月に朝倉川環境保全活動の一環で、本校に隣接する利兵池周辺や東陽中学校周辺の清掃活動を行っている。生徒会執行部が当日の運営やゴミの回収・分別・運搬を行い、生徒主体の活動となっている。毎年、ボランティア生徒が100名近く集まり、空き缶やペットボトルなど、さまざまなゴミを拾っている。秋には、校区内の神社に出かけ、大量の落ち葉を拾い、きれいにする活動にも取り組んでいる。地域の一員として、多くの生徒が活動に参加し、よりよい地域づくりの一翼を担う活躍をしている。



② 地域の施設に関わる人々にふれる活動（有志参加）



校区の各種行事（校区運動会、成人式など）に、有志の生徒や、芸能部が中心となって参加している。なかでも芸能部は、和太鼓やソーラン踊りの伝統の火を灯し続けるために、令和3年度から和太鼓とソーランを統合した部活動として、積極的に活動を行っており、地域との懸け橋となる役割を担っている。

最近では、活動が定着してきた結果として、校区健全育成会や自治会などでも話題にもらえる機会も増え、多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。

③ 国際社会に目を向け問題を見つめる活動（3年生）

3年生が、総合の時間を使って行っている探究活動である。SDGsの観点で世界を見直すことで、問題を見つけ、解決のための方法を模索している。「安全な水とトイレを世界中に」「人や国の不平等をなくそう」等の目標を達成するために、世界の現状や解決方法について調べ学習を行い、理解を深めている。インターネットを活用したり、修学旅行の訪問先で資料を得たりして情報を収集している。調べたことをもとに自分の考えをまとめ、仲間に発表し合うことで、国際社会の諸問題について視野を広げるとともに、国際社会に生きる一員としての自覚を深める学習を行っている。